

川崎市教育委員会策定委員会

策定委員 田 辺 誠

・ 不登校・学級崩壊はどうして起こるか

(1) 原因

学校に於ける児童生徒の健康問題は大変多くの問題を含んでいる。それは心の問題であり、家庭環境が大きく影響している。

①0～3歳までの期間に親、特に母親の子どもに対する対応が少ない。即ち抱きしめることが少なくなっている。これは母親が働きに出ているため、子供に接触する時間が少なくなっているのが一つの原因である(社会的要因)

②米国における子どもに対する早期の自立教育(早期の親離れ)の間違った知識が日本でも行われていたが現在は可成り改善されてきた

(2) 誘因

学校に於ける友人関係(いじめ等)、教師の子どもに対する不適切な対応(不公平感)

・ どう対処すべきか

乳・幼児教育が最も大切であり、教育委員会の範囲を乳幼児期まで下げ、一貫した教育体制をとるべきと思われる。即ち乳幼児教育とは母親の教育である。現在では健康福祉局や社会福祉協議会なども行っているが一貫性がない。ここを教育行政がどう考えるかに来ている。

それと同時に、高校生の育児教育(子供の誕生から3歳までの心の誕生)をしっかり教えるべきである。

(1) 子どもの抱きしめ運動を展開する

心の誕生は生物学的誕生より遅れ、3年間の年月の中で、一步ずつ着実に進行します。この生後3年間の心の誕生までの過程は、原始的な騒動の渦巻く心の旅でもあります。

幼い子どもたちの心の誕生への道も、太古の神話の世界のように原始的な不安と喜びの交差する冒険の旅と言えましょう。この発達道のりを、着実に自信を持って歩む子もいれば、尻込みし、やっとの思いで通過する子もいます。およそ3年の経過の中で心の誕生が成し遂げられる頃には、その子独特の個性を持った性格が出現するのです。

このように、人生の最初の旅がどのようなものであったかによって、その子の心の世界が一人一人違うのです。それはその子の一生の性格の原型にもなり、これからの長い人生での新しい未知の出来事の出会い方までも決定するでしょう。

(2) その性格は

①暖かさや明るさに包まれて育った子には、伸びやかで穏和な性格が、

②繰り返し母親の無関心や拒絶に出会ってきた子には、苛酷な凍土を旅し

てきた人のような、固く閉ざされた性格が、

③絶えず不意を打たれたり裏切られたりした子には猜疑心の強い性格が

④必ず失敗を乗り越えることの出来た子には楽観的な性格が認められるでしょう。

(3) 子どもに対する理解

私達が、一人の身近な大人として、子供と出会い、子どもたちに生じる問題に、良き援助の手をさしのべようとするならば、私たちは先ずお母さんと子どもの相互作用の内容とその関係のあり方の変化が心というものを形作っているということに思いを馳せるべきでしょう。